令和元年度第２回「横浜市地域公共交通会議」	
日　　時	令和２年３月 23 日（月）11 時 00 分～11 時 50 分
開催場所	ヨコハマジャストビル１号館８階１号室
開催形態	非公開
議　　題	案件　　旭中央地区「四季めぐり号」の本格運行について 報告(1) 泉区下和泉地区路線バス「Ｅバス」 (2) 戸塚区小雀地区乗合バス「こすずめ号」 (3) 金沢区東朝比奈・六浦地区路線バス新設 (4) ボランティアバス　本格運行へ移行
内　　容	**案件　旭中央地区「四季めぐり号」の本格運行について** （事業者）　「四季めぐり号」の本格運行の実施に当たり、運行計画の変更の趣旨について説明。 （事務局）　「四季めぐり号」の本格運行の実施に当たり、運行計画の変更の内容について補足説明。 （委員）　アンケート結果の中で「四季めぐり号」を利用していない理由として「他移動手段の方が便利」が最も多いが、具体的に把握しているか。 （事務局）　内訳としては、自家用車、あるいは健康のために歩くといった回答が多かった。全体で 1,000 世帯ぐらい居住している中で実際に利用しているのは一部であり、この回答層には必要な時に利用してほしいと考えている。 （委員）　同じ設問の中で「その他」が 86 件あるが、具体的に把握しているか。 （事務局）　自由記入の回答欄を設けており、その中で「健康のために歩く」が 23 件、「必要ない」、「未記入」が各 13 件となっている。 （委員）　現在の５、６便に利用が集中して乗り切れないとあるが、どういった対応を考えているのか。 （事務局）　現在の５、６便の利用が多い理由は、午前中に駅から帰宅する利用者が思ったより多く、対応として現在の５、６便の前後で増便した上で、現在の５、６便の利用が多い事を地域に周知して、可能な限り利用の分散を呼び掛けていきたい。 （委員）　案として、乗り切れなかった日や便の記録を取り、何らかの方法で便ごとの利用状況を利用者に周知をし、利用する時間を工夫してもらうといった手が考えられるのではないか。 （事務局）　今後、四季めぐり号だよりを月一で発行したいと考えており、利用実績を集計して、地域に伝え、周知していきたいと考えている。 （委員）　「四季めぐり号」の利用者の年齢層や属性を把握しているか。 （事務局）　アンケート結果で「四季めぐり号」を実際に利用したと回答した人は、50 歳代以下が各１割未満、60 歳代から割合が増加し、一番多い 80 歳代で 91 人のうち４割の 39 人が乗ったことがあると回答している。60 代から 80 代で全体の７割を占めている。

	（委員）　利用者の年齢層を考えると、ＱＲコード決済を利用する人は少ないのではないか。 （事務局）　ＱＲコード決済については、アンケートの結果で利用意向を聞いている。高齢者で利用すると回答した人が少なかった一方、「四季めぐり号」を利用していない若年層がＱＲコード決済に関心があったこと、事業者から導入費用が少ないことから、１人でも利用が増えるきっかけになればと考えている。 （座長）　時間帯別、性別で利用者層は把握しているか。 （事務局）　時間帯別には把握していない。男女比は３：７の割合である。 （委員）　昼間に混んでいるのは自然な流れであり、特に高齢者は午前の早い時間から買い物をして午前中に帰宅する人が多いようだ。昼の便を充実させることは良いことだと思う。 **報告(1) 泉区下和泉地区路線バス「Ｅバス」について** （事務局）　2019 年 12 月１日に実施した運行計画の変更の内容について説明。 **報告(2) 戸塚区小雀地区乗合バス「こすずめ号」について** （事務局）　前回の地域公共交通会議後の取組について説明。 **報告(3) 金沢区東朝比奈・六浦地区路線バス新設について** （事務局）　2020 年３月１日から開始した実証運行の内容について説明。 **報告(4) ボランティアバス　本格運行へ移行について** （事務局）　今年度に本格運行へ移行した２地区について説明。 （委員）　本格運行に移行する目安があるのか。また、地域でボランティアバスを運行したい場合に車両費など補助はあるのか。 （事務局）　本格運行への移行は、組織体制の確立などが判断基準となっている。バス、タクシー事業者による検討を経て、ボランティアバスへ移行する場合に今年度から車両費など補助できるように支援拡充を行った。 （委員）　地域交通サポート事業の中でボランティアバスの位置付けがどのようになっているか。また、ボランティアバスの考え方が示され、地域の努力により運行しているという趣旨が理解されているのか。 （事務局）　今年度から地域交通サポート事業の中でボランティアバスを位置付けた。バス、タクシー事業者による検討を経て、小規模需要に対応するためにボランティアバスを検討する。 　ボランティアバスは、リーフレットにも記載している。緑区山下地区など地域同士で交流会を開催するなど意見交換を実施している。 以上